

地域と大学

第20号

Newsletter No.20, Center for Education and Research in Lifelong Learning

大学が「連携」するということ

生涯学習教育研究センター准教授 金子 淳

静岡大学に着任したのが2007年4月のことだから、まもなく丸3年が経とうとしている。1994年に博物館学芸員としての仕事を始め、以来13年間、東京郊外の3つの博物館を渡り歩いてきた。その後、諸般の事情により大学に身を移すことになったのだが、さまざまな面で博物館との違いを痛感し、戸惑うことも多かった。そんな中、大学に来てことさら耳にすることが多くなった言葉の一つが「連携」だった。

「産学連携」を筆頭に、「社会連携」「地域連携」「高大連携」「大学間連携」など、あたかも強迫観念のように、他者と「つながっている」ことが求められ続けているようで、正直なところ当初は奇異に感じられた。

たとえば博物館の世界では、「地域連携」という言葉が使われることはきわめて少ない。博物館学者・伊藤寿朗が1980年代に提唱した「地域博物館論」をはじめ、地域とつながりを持つという理念はいまや博物館活動の根幹をなし、実際に多くの実践が蓄積されている。「地域とつながりをもつこと」が何も特別なことではないことは誰もが認め、それが「当たり前」のことだから、あえて「地域連携」という言葉を使う必要がないわけだ。

だが一方で、「博学連携」という言葉は、1980年代後半あたりから盛んに使われるようになった。これは、博物館と学校教育との連携を推進しようという動きのことで、1970年代以降に強調されるようになった「学社連携論」の博物館版とでもいえるようなものだった。

地域との関係と違い、それまで学校との関係が希薄だったことの裏返しでもあるのだが、その背景には、経営の効率性を求める経済事情も大きく影響していた。長引く経済不況の影響で財政難に陥った自治体が、

(公立)博物館に対して「効率的な」運営を迫り、その結果として入館者数の増加を求めるようになる。そして、“手っ取り早い”入館者増加の手立てとして学校の団体利用に注目するようになり、学校教育との「連携」に力を入れる博物館が増加したのだ。つまり、強制的ともいえる社会的な要請に対して、現実に対応せざるを得ない状況に直面して初めて「連携」に追いまかれるようになったのである。

翻って、大学において「連携」という言葉がこれだけもてはやされている背景には、いったい何があるのか。もちろん、関係者の熱意や使命感に支えられていることは間違いないが、おそらくは、2004年の国立大学の法人化以降、生き残りをかけて「効率的な」経営を志向せざるを得ない状況の中で、その苦しみの中から生み出されてきたのだろう。いずれにせよ、大学で連発される「連携」には、何か切迫感や悲壮感のようなものが付きまとっている。

ところで、「連携」という言葉には、規範的な意味合いが染み付いているがゆえに、常にスローガンとして機能するという特徴がある。したがって、規範的な方向性を指し示すには口当たりがよく、とりあえずは何に対しても当てはまる。その必要性を高らかに謳えば、それ以上誰も口を挟めなくなるような“殺し文句”としての効果を持つ。だからこそ、個人や組織の「善意」として口々に「連携」が叫ばれ、いつしか大合唱へと変わっていくことになるのだろう。しかし、スローガンの「連携」の一語で済ませてしまうことで、素朴な努力目標を指し示す反面、「連携」の意味する関係性の具体的なありようが問われなくなり、曖昧なままとなる。

では、「連携」とは、いったい具体的にどのような中身や役割分担を伴った営みを指すのだろうか。これは案件によってかなりのバリエーションがある。たとえば、仮に自治体の社会教育関係部署の担当者が、数回のシリーズものの講座の企画を大学に「丸投げ」して

きたとする。全体テーマから各回の講師、内容を、大学側ですべて「お膳立て」して提示した場合、これは「連携」といえるのか。企画立案の「代行」という言葉がすぐに想起されるが、こうした一方的な関係性であっても、実際には大学の「地域連携」の「実績」に首尾よく収まることになる。

田村紀雄と染谷薫は、大学における「産学連携」を例に、「連携の分類」について興味深い指摘をしている（田村紀雄・染谷薫「産学連携」論～コミュニケーション学からの考察～『コミュニケーション科学』22、東京経済大学、2005年）。吉田民人による「紐帯」の定性的・定量的類型化の議論（表1・図1）に着想を得て、表2のような4分類の「紐帯」を抽出した。その4分類の内容を具体的に示せば以下のとおりになる。

- ①協力：共通の目的で相互関係が強く、特定製品の開発のため、技術開発は大学で行い、製品化を企業で行う状態（委託研究など）
- ②同類：世界に先駆けた技術を開発するために、企業側と大学が同じ方向で研究を進めている

	集合的	連鎖的
遂行的 属性的	目標紐帯 価値紐帯	要求紐帯 愛憎紐帯

表1 紐帯の定性的類型化

	状相類型	
	同属	従属
目標紐帯 価値紐帯	協力 同類	指導 威光

表2 社会関係の紐帯

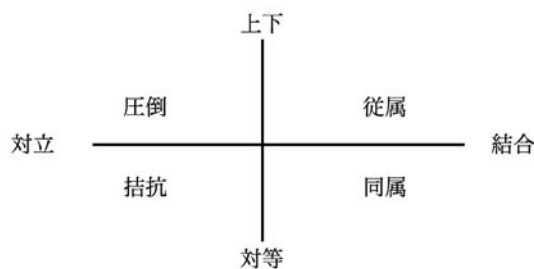


図1 紐帯の定量的類型化

状態（共同研究など）

- ③指導：企業側の目的のため、大学に技術開発の教えを受けている状態
- ④威光：大学（教員）の権威が価値を持って企業に受入れられ、例えば商品宣伝に大学（教員）との開発を強調する状態

「産学連携」と総称される営みにおける、その相互の関係（紐帯）を紐解くと、「連携」という包括的な一語では済まされない多様な関係性が見えてくる。これを「地域連携」に置き換えても事態は同様であろう。奇しくも本誌の名称も『地域と大学』だが、少なくとも、「連携」という規範的な耳障りの良い言葉に逃げ込んでしまいたい欲望を抑えて、その関係のありようを分解し、役割分担を具体的に指し示すような言葉を探し出して表現していくことが求められるのではないか。

さらにいえば、「連携」という営みが何も特別なことではなく、それがあたかも空気のように「当たり前」のことになれば、自然に「連携」などと意気込んで使わなくなるはずだ。結果として、「連携」が死語化されていくような状況が望ましいのかもしれない。

2009年度静岡大学公開講座が終了しました

今年度の静岡大学公開講座は、5月から11月にかけて、多岐にわたるテーマで実施されました。全体の実施状況は以下の表のとおりです。

今年度の実施結果をもとに、来年度以降の公開講座のあり方に結びつけていきたいと思ひます。

種別	講座名	講師	日時	対象	会場	定員	実数	受講料	主催
教養を高める	世界の演劇文化の楽しみ方	人文学部教授 上利博規	5月23日(土) 13:30~16:30	一般市民	静岡芸術劇場 (グランシップ内)	30	15	600円	人
		人文学部教授 鈴木実佳							
		人文学部教授 岡崎真紀子							
		人文学部准教授 花方寿行							

種別	講座名	講師	日時	対象	会場	定員	実数	受講料	主催
教養を高める	対人援助サービスの質的向上を目指して～ヒューマンケアに支えられた共生社会のために～	人文学部教授 松田 純 法科大学院教授 藤本 亮 人文学部准教授 堂園俊彦 人文学部教授 南山浩二 人文学部准教授 荻野達史 人文学部准教授 竹ノ下弘久 人文学部准教授 橋本 剛 人文学部教授 平岡義和	6月23日・30日・7月7日・14日・21日・28日(火) [全6回] 18:30～20:30 (7/28のみ18:30～19:30)	看護師、介護福祉士、医師、理学療法士、医療や福祉に従事する方、障害者、ひきこもり児童、滞日外国人のサポートに携わっているNPO関係者、教員、行政関係者、家族の方など	静岡市産学交流センター(B-nest)	30	22	各回500円(第6回のみ400円)	(生)
	聞いてよかった! 日本語ゼミナール	人文学部教授 勝山幸人 人文学部教授 服部義弘 人文学部教授 城岡啓二 人文学部教授 熊谷滋子 人文学部准教授 大村光弘	9月12日(土) 9:30～17:00	一般市民、高校生、留学生、外国人	静岡市産学交流センター(B-nest)	40	17	2,000円	(人)
	高齢化社会における地域とまちづくり	教育学部准教授 中條暁仁 教育学部准教授 矢野敬一 人文学部教授 南山浩二	9月12日・19日・26日(土) [全3回] 14:00～16:00	一般市民	沼津市民文化センター	50	42	1,500円	(生)
	アジアの人々と暮らしは今	人文学部教授 大野 旭 人文学部教授 浅利一郎 人文学部教授 上利博規	9月26日・10月3日・10日(土) [全3回] 13:00～15:00	一般市民	静岡市産学交流センター(B-nest)	27	13	1,000円	(人)
	情報学アラカルト講座2009	情報学部教授 竹林洋一 情報学部准教授 竹内勇剛 情報学部教授 雨宮正彦 情報学部教授 高松良幸	11月14日(土) 10:30～12:00	一般市民及び本学の学生とその保護者	静岡大学浜松キャンパス	210	57	各講座500円	(情)
身体を動かそう	運動不足解消のためのエンジョイ大人卓球教室	教育学部教授 吉田和人 NPO法人卓球交流会 山田耕司	10月3日(土) 13:30～16:00、10月4日(日) 9:00～12:30	一般市民	静岡大学静岡キャンパス	50	24	3,000円	(教)
	ノルディックウォーキング&エクササイズと里山自然体験	教育学部准教授 杉山康司 教育学部准教授 祝原 豊 名誉教授 中野偉夫 教育学部技術専門職員 重岡廣男	11月9日・16日・30日(月) [全3回] 9:30～11:30	メディカルチェック等で歩くことを制限されていない健康な方	静岡大学静岡キャンパス	20	15	5,500円	(教)
科学・自然を楽しむ	体験!大学の化学実験	機器分析センター准教授 近藤 満 理学部化学科助教 仁科直子	8月1日(土)、2日(日) [全2回] 10:00～16:00	原則として中学生以上(小学生は保護者の同伴が必要)	静岡大学静岡キャンパス	36	16	2,000円	(生)
	静大キャンパス探訪～キャンパス内の自然と歴史に触れよう～	人文学部教授 滝沢 誠 教育学部技術職員 新妻廣美 教育学部教授 小南陽亮	10月17日・24日・31日(土) [全3回] 10:00～12:00	一般市民	静岡大学静岡キャンパス	20	20	1,000円	(キ)
	バイオテクノロジー体験～生長点培養をしてみよう～	農学部准教授 河原林和一郎 農学部助教 浅井辰夫 農学部助教 八幡昌紀 農学部技術専門職員 増田幸直 農学部技術専門職員 西川浩二 農学部技術専門職員 成瀬博規	10月31日(土) 9:45～12:15	中学生以上	静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター藤枝フィールド	20	8	1,000円	(農)
指導者を育てる	小学校外国語活動スキルアップ講座	教育学部准教授 矢野 淳	8月21日(金) 10:00～16:00	静岡県内の小・中学校教員	静岡大学静岡キャンパス	25	19	500円	(実)
	問題を通して関係を深める	教育学部准教授 加藤弘通 教育学部附属教育実践総合センター教授 杉山 孝	8月26日(水) 13:30～16:30	学校教員、学校教育関係者	静岡市産学交流センター(B-nest)	30	10	1,000円	(実)
	日本語教育とその周辺	国際交流センター教授 原沢伊都夫 国際交流センター准教授 袴田麻里 国際交流センター非常勤講師 松葉優子 国際交流センター教授 熊井浩子 国際交流センター准教授 案野香子	10月10日・17日・24日・31日・11月7日(土) [全5回] 13:30～16:30	日本語教育関係者または日本語教育に興味のある社会人	静岡市産学交流センター(B-nest)	30	35	4,000円	(国)

[主催欄凡例]

(生) = 生涯学習教育研究センター (人) = 人文学部 (教) = 教育学部 (農) = 農学部 (情) = 情報学部
(キ) = キャンパスミュージアム (実) = 教育学部附属教育実践総合センター (国) = 国際交流センター

静岡大学創立60周年記念事業

静岡大学は、2009年度に創立60周年を迎え、その記念事業として数々の催しを行いました。静大フェスタ（5月）、大学サイエンスフェスタ（11月）などのイベントや、キャンパスミュージアム特別展「静岡大

学のあゆみと教育・研究の現在」、企画展「富士山展」などの記念展示、記念誌の発行などを行いました。

生涯学習教育研究センターでは、以下の記念事業を実施しました。

1 静岡大学・読売新聞連続市民講座「人間と環境の現在と未来—21世紀の日本を拓く」

回	日時		タイトル	講師	参加者
1	5/9 (土)	14:00-16:00	地球温暖化防止と私たちの未来：低炭素社会をつくるために	水谷洋一（静岡大学人文学部准教授）	106
2	6/6 (土)	14:00-16:00	地球環境のマイクロ世界で何が起きているのか：地球温暖化と関係あるの？	鈴木 款（静岡大学創造科学技術大学院・理学部教授）	95
3	7/4 (土)	14:00-16:00	環境思想の系譜：エコロジーはどういう考え方か	芳賀直哉（静岡大学大学教育センター教授）	104
4	8/1 (土)	14:00-16:00	環境「リスク」としての地球温暖化：環境問題の社会的見方	平岡義和（静岡大学人文学部教授）	97
5	9/5 (土)	14:00-16:00	植物の力が私たちを助ける	本橋令子（静岡大学農学部准教授）	87
6	10/3 (土)	14:00-16:00	富士山をとり巻く植物群落を知る：-1000 mから3776 mへ	増沢武弘（静岡大学理学部教授）	88
7	11/7 (土)	14:00-16:00	農業は環境を破壊するか：アフリカ熱帯雨林の焼畑・混作農業	小松かおり（静岡大学人文学部准教授）	70
8	12/5 (土)	14:00-16:00	社会と自然の関わりを知る：私たちの未来へ向けての環境教育	大塚謙一（静岡大学教育学部教授）	68
9	1/9 (土)	14:00-16:00	生、死、自然：人間と環境の関係をたずねて	竹之内裕文（静岡大学創造科学技術大学院・農学部准教授）	78
10	2/6 (土)	14:00-17:00	①21世紀の羅針盤を求めて ②市民とともに進める環境保全：棚田再生の記録	①松田 智（静岡大学工学部准教授） ②中井弘和（静岡大学名誉教授）	81

■会場：静岡市産学交流センター（B-nest）6階プレゼンテーションルーム

■参加費：無料

■主催：静岡大学生涯学習教育研究センター、読売新聞東京本社静岡支局

■後援：静岡県、静岡県教育委員会、静岡市、静岡市教育委員会、静岡第一テレビ

2 静岡大学・中日新聞連携講座「くらしをひらく最先端」

回	日時		タイトル	講師	参加者
1	10/17(土)	14:00-16:00	水をめぐる最先端 ①水を生き返らせる：アメニティ佐鳴湖プロジェクトの活動とその成果 ②水を活かす：海のしくみと駿河湾深層水」	①戸田三津夫（静岡大学工学部准教授） ②宗林留美（静岡大学理学部助教）	26
2	11/15(土)	14:00-16:00	匠の技を現代に：はままつデジタルマイスター養成プログラムが目指すもの	中村 保（静岡大学工学部教授）	41
3	12/12(土)	14:00-16:00	未来の科学者を育てる：ものづくり理科地域支援ネットワーク・浜松RAIN房の挑戦	藤間信久（静岡大学工学部教授）	38
4	1/9 (土)	14:00-16:00	子育てのコツ、教えます：子育て支援コンテンツの構築を目指して	竹林洋一（静岡大学創造科学技術大学院・情報学部教授）	50

回	日時		タイトル	講師	参加者
5	2/13 (土)	14:00-16:00	未来のテレビはこうなる：画像工学の現在と未来 ①浜松発のテクノロジー：テレビの過去・現在・未来 ②次世代の産業・医療を支える：浜松オプトロニクスクラスター	①三村秀典（静岡大学電子工学研究所所長） ②猪川 洋（静岡大学電子工学研究所教授）	45

■会 場：静岡大学浜松キャンパス 佐鳴会館会議室

■参加費：無料

■主 催：静岡大学、中日新聞東海本社

■後 援：静岡県、静岡県教育委員会

3 静岡大学・コープしずおか創立60周年記念連携公開講座「食を考える」

回	日時		タイトル	講師	参加者
1	7/4 (土)	10:30-12:00	日本農業の再生を考える	中井弘和（静岡大学名誉教授）	59
2	9/5 (土)	10:30-12:00	食の安全と安心を考える	安井 至（東京大学名誉教授・独立行政法人製品評価技術基盤機構理事長）	39
3	11/7 (土)	10:30-12:00	キノコの化学・科学:キノコの食品としての機能性、安全性、毒性を物質レベルで考える	河岸洋和（静岡大学創造科学技術大学院教授）	31
4	12/12(土)	10:30-12:00	食品栄養学の世界	森田達也（静岡大学農学部応用生物化学科教授）	28
5	1/9 (土)	10:30-12:00	安全・安心な食品とは何か	衛藤英男（静岡大学農学部応用生物化学科教授）	22
6	3/13 (土)	13:30-15:30	生活習慣病予防のための食生活の工夫：長寿社会を生き抜くために	川手 隆（静岡大学教育学部講師）	29
※	11/14(土)	10:00-14:30	清沢塾の見学・作業体験		16

■会 場：静岡市産学交流センター（B-nest）6階プレゼンテーションルーム

〔第4回〕 沼津市民文化センター 第3練習室

〔第5回〕 アクトシティ浜松コンgresセンター 22-23 会議室

〔※特別企画〕 清沢塾

■参加費：200円（資料代）

■主 催：静岡大学、コープしずおか

4 静岡大学開学60周年記念公開シンポジウム「静岡大学の足跡と未来への足音」

回	日時		タイトル	講師	参加者
1	5/30(土)	10:30-12:20	わたしが語るわたしの静岡大学	コーディネーター：平野雅彦（静岡大学人文学部客員教授） パネリスト：満井義政（静岡大学理事）、杉田 豊（静岡大学同窓会代表）、藤田幸宏（同窓会代表）、新井和康（学生代表・静岡大学大学院教育学研究科音楽科教育専攻修士1年）、川原瑠莉（学生代表・静岡大学人文学部言語文化学科2年）	-
2	1/30(土)	13:30-16:30	それはいかに実現されたのか？	コーディネーター：中井弘和（静岡大学名誉教授） パネリスト：佐藤博明（元静岡大学学長）、鈴木 款（静岡大学創造科学技術大学院・理学部教授）、松田 智（静岡大学工学部准教授）、水谷洋一（静岡大学人文学部准教授）	48

■日 時：〔第1回〕 5月30日（土）10:30～12:20、〔第2回〕 1月30日（土）13:30～16:30

■会 場：〔第1回〕 ツインメッセ静岡 北館

〔第2回〕 静岡県男女共同参画センターあざれあ大会議室

■参加費：無料

2009年度の事業報告

主催事業

公開セミナー

「学んで楽しい！～大学で学ぼう～」

知的障害のある人が、学校卒業後も生涯学習の機会を持ち、より豊かな人生を送ることができることを目的に、「学んで楽しい！」と題する公開セミナーを実施しました。知的障害のある人にとっても、学び続ける機会があることで、社会参加の幅が広がり、人生をより豊かにすることができます。大学のキャンパスを学びの場にしようという趣旨の企画です。ボランティアの方々も含めたくさんの方々に参加いただきました。

[前期]

■日時：2009年6月21日（日）9:00～12:10

■プログラム：

- ①「人はなぜ悪いことをするのか？」講師：石井 潔（静岡大学教育学部教授・学部長）
- ②「世界へはばたけ！ 富士山静岡空港」講師：岩瀬智久（静岡県空港部利用推進室）

■参加者数：107人（うち学生23人、教職員その他33人）

[後期]

■日時：2009年10月18日（日）9:00～12:10

■プログラム：

- ①「テレビCMっておもしろい」講師：佐々木洋（電通東日本静岡支社クリエイティブ部主務）
- ②「60分ヒップホップマスター」講師：中村友香（静岡県立浜松特別支援学校講師）

■参加者数：123人（うち学生36人、教職員その他34人）

[共通事項]

■会場：静岡大学大学会館ホール



60分ヒップホップマスター

■参加者：静岡県の知的障害養護学校等卒業の社会人（18歳以上）、県立特別支援学校等の教員、青年学級等の関係者・保護者、静岡大学教育学部特別支援教育（障害児教育）専攻の学生、静岡県知的障害者就労研究会会員など

■企画：静岡県知的障害者就労研究会

公開シンポジウム

「学習ネットワークと生涯学習⑫」

「学習ネットワークと生涯学習」をテーマに実施する公開シンポジウムも、今回で12回目を数えました。今回は、市民・行政・企業・NPO・他の自治体などのネットワークを駆使した地域づくり、情報学・ITを駆使した都市分析、情報ネットワークを活用した教育実践などを取り上げながら、生涯学習のための学習ネットワーク構築の可能性を検討しました。

なお、このシンポジウムの内容の詳細については、当センターが発行する研究紀要で別途報告する予定です。

■日時：2010年1月19日（火）14:20～15:55

■会場：静岡大学共通教育A棟201教室

■プログラム：

- ①「静岡の公立中学校と仙台の私立大学はなぜ共同プロジェクトを実践しているのか～新たな学習ネットワークと生涯学習の可能性～」報告者：田中章義（歌人、元国連WAFUNIF親善大使）
- ②「デジタルコンテンツやe-learningは教育にどのような変革をもたらすか、デジタル化を進めるメディアがどのように貢献できるか、問題点はないのか」報告者：熊野善介（静岡大学教育学部教授）
- ③「メディアを介したコミュニケーションにおける対人社会的側面とインタラクションデザイン」報告者：竹内勇剛（静岡大学情報学部准教授）

■コーディネーター：菅野文彦（静岡大学教育学部教授）

■参加費：無料

■参加者数：50人

しずだいい飛ぶ教室 in 清水町「思春期における児童の心の理解とその寄り添い方」

「しずだいい飛ぶ教室」は、地域への大学開放事業の一つとして、静岡大学関係の教職員が、静岡県内の遠

隔市町へ出向き、出前講演等を行うものです。

本事業は、大学の特徴ある教育研究を地域に広げ、大学への関心を高め、地域の生涯学習に資することを目的としています。今回は、清水町教育委員会の仲介により、PTA（清水町立西小学校・学校保健委員会）から講演会を実施したいという申し出を受け、「思春期における児童の心の理解とその寄り添い方」をテーマに「しずだいで飛ぶ教室 in 清水町」として実施しました。

- 日時：2010年2月2日（火）15:15～16:40
- 会場：清水町立西小学校・オレンジルーム
- 講師：小林朋子（静岡大学教育学部准教授）
- 参加費：無料
- 対象：教職員、保護者、地域住民
- 参加者数：60人
- 主催：静岡大学生涯学習教育研究センター
- 共催：清水町立西小学校・学校保健委員会

博物館フォーラム

「博物館からひろがるネットワーク」

博物館は単独で存在しているのではなく、さまざまな組織や機関とつながっています。したがって、博物館同士のつながりはもちろん、他の組織や機関との連携によって、新たな効果を生み出すことが可能になります。そこで、今回は、他の博物館や機関と積極的につながりながら展開している活動事例を通して、博物館活動の新しい可能性を探りました。

なお、このシンポジウムの内容の詳細については、当センターが発行する研究紀要で別途報告する予定です。

- 日時：2010年3月6日（土）14:00～16:30
- 会場：クリエート浜松 53会議室
- プログラム：
 - ①「三・遠・信博物館の広域ネットワーク」報告：金原宏行氏（常葉学園大学教授・豊橋市美術博物館長）
 - ②「市町村合併と広域博物館群の構築」報告：太田好治氏（浜松市博物館学芸員）



③「まちと博物館を結ぶ」報告：小岩信治氏（静岡文化芸術大学文化政策学部准教授）

- コーディネーター：高松良幸（静岡大学情報学部教授）
- 参加費：無料
- 参加者数：21人
- 後援：浜松創造都市協議会

共催事業

地域連携協働センター公開シンポジウム「地域と大学をつなぐ～メディアイーターとしての学生～」

静岡大学では、大学と地域との連携・協働をより円滑に進め活性化するため、2008年に地域連携協働センターを設立し、様々な活動を行ってきました。その中で確認されたことは、学生の地域連携・貢献活動への期待がきわめて高いことでした。

そこで、地域と大学が連携・協働するためのメディアイーターとしての学生の役割に注目し、学内外の取り組み事例を紹介しながら、地域連携のあり方について考えました。

- 日時：2010年1月23日（土）14:00～17:00
- 会場：静岡バルシェ会議室
- プログラム：

- (1) 基調講演「結 [YUI] ～現代GP 芸術工房ネットワークの活動」講師：片桐隆嗣（東北芸術工科大学教授）
- (2) 事例報告
 - ①「現代GP 一社一村しずおか運動における学生の役割」報告：竹之内裕文（静岡大学創造科学技術大学院准教授）、佐々木康之（静岡大学大学院農学研究科修士2年）
 - ②「音楽活動を通じた地域連携の取り組み」報告：小西潤子（静岡大学教育学部准教授）、新井和康（静岡大学大学院教育学研究科修士1年）
 - ③「リベラルアーツカフェの挑戦」報告：藤井基貴（静岡大学教育学部准教授）、宮田舞（静岡大学教育学部4年）



④「空港開港に伴う静岡市のホテル旅館の国際化対応と留学生の貢献」報告：鄭 眞永（静岡大学大学院人文社会科学研究科修士2年）、鈴木 瑞（静岡大学大学院人文社会科学研究科修士2年）

⑤「地域と大学を結ぶ、天晴れ門前塾の取り組み」報告：林 のぶ（静岡大学教育学部同窓会）

⑥「創立60周年記念公開シンポジウムの企画・実施を通して」報告：伊藤允彦（静岡大学大学院農学研究科修士1年）

(3) パネルディスカッション

コーディネーター：満井義政（静岡大学地域連携協働センター・センター長）

■参加者数：48人

■参加費：無料

■主催：静岡大学地域連携協働センター、静岡大学生涯学習教育研究センター

生涯学習指導者研修事業

「地域を担う公民館の役割と展望」

静岡県内の公民館活動などを通して、生涯学習事業を展開している生涯学習指導者への教育研究情報の提供と大学とのネットワークづくりを進めるとともに、指導者の資質の向上をはかることを目的に、静岡県公民館連絡協議会との連携事業として実施するものです。

近年公民館を取り巻く環境が変化し、また、家庭教育支援、人材育成、多文化共生への対応、地域づくりへの貢献など、地域社会のなかで期待される役割もその比重が変わりつつあります。地域課題を探り、住民との連携をはかりながら活動を行う各地の公民館の事例に学びながら、地域を担う公民館の役割と展望について検討しました。

■日時：2010年1月27日（水）10:30～16:00

■会場：清水興津生涯学習交流館

■プログラム：

①基調講演「地域を担う公民館の役割と展望」講師：原 義彦（秋田大学教育文化学部准教授）

②事例報告

・「地域住民や関係団体に支えられたふれあいのある公民館づくり」報告者：岡本政義（浜松市伊佐見公民館長）

・「多文化共生をめざす公民館の国際交流事業」報告者：石垣英夫（袋井市浅羽南公民館長）

・「ブラジル人向け日本語教室『いわしん バモス 日本語!』」報告者：絹村和弘（磐田市南御厨公民館長）

・「こどもの講座とボランティア」報告者：青島敏文（焼津市焼津公民館長）

・「公民館の役割と地域事業」報告者：港京子（袋井市浅羽東公民館指導員）

・『『やきつべの里フォーラム』での社会教育実習を通して学んだこと』報告者：静岡大学教育学部生涯学習専攻学生

③パネルディスカッション

パネリスト：事例報告者

コメンテーター：猿田真嗣（常葉学園大学教育学部教授）

コーディネーター：菅野文彦（静岡大学生涯学習教育研究センター・副センター長、教育学部教授）

■参加者数：74人

■参加費：無料

■主催：静岡県公民館連絡協議会、静岡大学生涯学習教育研究センター

文化講演会

「古木や一里塚が語る東海道の歴史」

有度国際セミナー・NPO法人エイジングブライイト倶楽部との共催により実施しました。

■日時：2009年11月27日（金）、12月7日（月）

13:30～15:00

■会場：清水区有度生涯学習交流館3階集会室

■内容：

①11/27「久能寺と有度の古寺」講師：湯之上隆（静岡大学人文学部教授）

②12/7「近世東海道と有度地域」講師：本多隆成（静岡大学名誉教授・放送大学静岡学習センター長）

■参加費：2,000円（全2回分）

■主催：有度国際セミナー、NPO法人エイジングブライイト倶楽部、静岡大学生涯学習教育研究センター

■後援：静岡県教育委員会、静岡市、有度連合自治会

企画協力事業

富士市民大学前期ミニカレッジ

「富士周辺の歴史と文化」

■日時：2009年5月20日～7月15日までの毎週水曜日 [全9回] 19:00～20:30

■会場：富士市文化会館（ロゼシアター）

■プログラム：

- ① 5/20「南北朝・室町期の今川氏」講師：小和田哲男（静岡大学名誉教授）
- ② 5/27「戦国大名今川氏の盛衰」講師：小和田哲男
- ③ 6/3「鎌倉幕府と駿河の武士たち」講師：湯之上隆（静岡大学人文学部教授）
- ④ 6/10「富士山をめぐる宗教文化史」講師：湯之上隆
- ⑤ 6/17「武田氏の駿河支配と富士」講師：小川隆司（島田商業高校教諭）
- ⑥ 6/24「家康の領国支配と小田原攻め」講師：本多隆成（放送大学静岡学習センター所長・静岡大学名誉教授）
- ⑦ 7/1「近世の東海道と富士川舟運」講師：本多隆成
- ⑧ 7/8「近世富士地域の新田開発」講師：厚地淳司（沼津市教育委員会）
- ⑨ 7/15「富士をめざした人々」講師：松本稔章（静岡県教育委員会）

■参加費：3,000円

■主催：富士市教育委員会

■企画協力：静岡大学生涯学習教育研究センター

吉田町特別講座

「中国古代史と現代の文化」

■日時：2009年9月24日～10月29日までの毎週木曜日 [全6回] 19:30～21:00

■会場：吉田町中央公民館

■プログラム：

- ① 9/24「秦の始皇帝とその時代」講師：戸田裕司（静岡福祉大学社会福祉学部教授）
- ② 10/1「漢と匈奴：農耕世界と遊牧世界」講師：戸田裕司
- ③ 10/8「三国志の世界」講師：戸田裕司
- ④ 10/15「身近な中国（華僑・留学生）」講師：戸部 健（人文学部准教授）
- ⑤ 10/22「中国の観光地（都市の文化）」講師：戸部 健
- ⑥ 10/29「これからの中国（党・国家）」講師：戸部 健

■参加費：3,000円

■主催：吉田町教育委員会

■企画協力：静岡大学生涯学習教育研究センター

静岡市南部生涯学習センター・生涯学習教育研究センター連携事業「日本の歴史・伝統との対話」

■日時：2009年9月30日～11月25日までの隔週水曜

日 [全5回] 19:00～21:00

■会場：静岡市南部生涯学習センター 第3集会室

■プログラム：

- ① 9/30「静岡の仏教美術」講師：大宮康男（静岡大学教育学部教授）
- ② 10/14「『源氏物語』の魅力」講師：松岡智之（静岡大学教育学部准教授）
- ③ 10/28「職業作家の誕生：“売れる本”ということ」講師：小二田誠二（静岡大学人文学部教授）
- ④ 11/11「大切に伝えたい柔道の心」講師：田中秀幸（静岡大学教育学部教授）
- ⑤ 11/25「明治時代の教科書」講師：花井 信（静岡大学教育学部教授）

■参加費：無料

■主催：静岡市南部生涯学習センター

■企画協力：静岡大学生涯学習教育研究センター

6大学リレー講座

「市民大学講座～静岡を学ぶ～」

■日時：2009年8月1日～8月29日 [全6回] 13:30～15:00

■会場：アイセル21 3階31集会室

■プログラム：

- ① 8/1（土）「日本の抱える海洋問題」講師：山田吉彦（東海大学教授）
- ② 8/8（土）「娯楽から静岡市を考えてみよう」講師：天野景太（静岡英和学院大学講師）
- ③ 8/11（火）「静岡三題噺：お茶・プラモデル・時計」講師：小二田誠二（静岡大学人文学部教授）
- ④ 8/18（火）「駿府96ヶ町物語」講師：織田元泰（常葉学園大学教授）
- ⑤ 8/22（土）「静岡県の特産物で健康長寿をめざそう」講師：木苗直秀（静岡県立大学学長）
- ⑥ 8/29（土）「登呂遺跡と遺伝子解析」講師：堀江信之（静岡英和学院大学短大部教授）

■参加費：無料

■主催：静岡英和学院大学、静岡英和学院大学短期大学部、静岡県立大学、静岡大学、東海大学、常葉学園大学、静岡市

■企画協力：静岡大学生涯学習教育研究センター

静岡大学公開講座ブックレット創刊！

生涯学習教育研究センターでは、2008年度より、『公開講座ブックレット』の刊行を開始しました。当センター主催の公開講座の記録を講演録という形でまとめて発行するというものです。

公開講座を実施してそのまま終わりにするのではなく、記録として残し、公開していくことによって、知の蓄積と共有を図ろうと考えています。

2009年度までに以下のとおり3冊のブックレットを刊行しました。これからも発行していく予定です。どうぞご期待ください。これらのブックレットは、静岡大学附属図書館や静岡県内の公共図書館で閲覧することができます。

第1号

「身近な自然環境・里山との付き合い方」

第1回：富田 昇（植物研究家）「里山の性格とその変貌——史資料に見る山林利用の変遷」＝2008年8月30日（土）実施

第2回：小嶋睦雄（静岡大学農学部教授）「海岸林と人の共生関係論」＝2008年9月6日（土）実施

第3回：小南陽亮（静岡大学教育学部教授）「里山の自然環境——生態学からみた里山の森林」＝2008年9月13日（土）実施

[発行日] 2009年3月31日 [頁数] 74ページ

第2号

「浜松の戦争遺跡を探る」

第1回：荒川章二（静岡大学情報学部教授）「浜松の陸軍基地」＝2008年10月4日（土）実施

第2回：村瀬隆彦（静岡県立掛川西高校教諭）「浜松空襲について」＝2008年10月11日（土）実施

第3回：竹内康人（近代史研究者）「浜松の戦争遺跡」＝2008年10月18日（土）実施

※第4回（10月25日）は野外見学のため本書には掲載していない。

[発行日] 2009年11月20日 [頁数] 76ページ

第3号

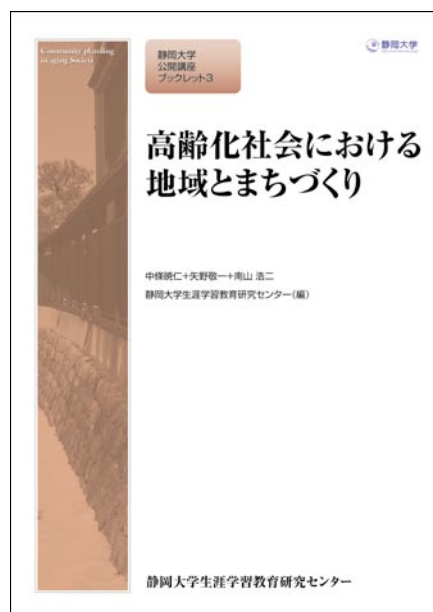
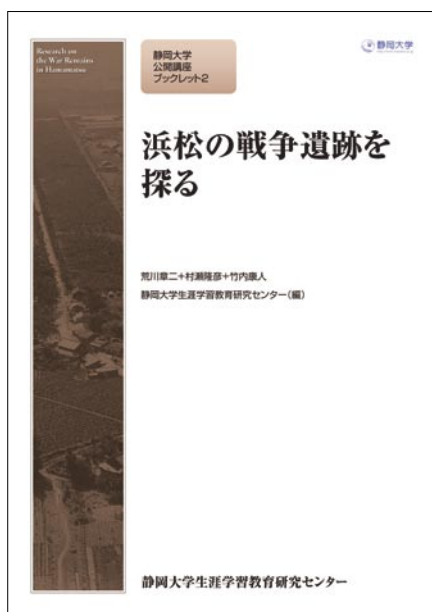
「高齢化社会における地域とまちづくり」

第1回：中條暁仁（静岡大学教育学部准教授）「高齢者は弱者なのか？——「ポジティブな高齢者」像をめざして」＝2009年9月12日（土）実施

第2回：矢野敬一（静岡大学教育学部准教授）「祭りを継続させる・町屋のまちづくりを立ち上げる——空洞化・高齢化する市内中心部とその存続戦略」＝2009年9月19日（土）実施

第3回：南山浩二（静岡大学人文学部教授）「家族・地域社会のゆくえと高齢者介護」＝2009年9月26日（土）実施

[発行日] 2010年3月20日 [頁数] 72ページ



2009年度静岡大学市民開放授業

市民開放授業の概要

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目を、一般市民の方に開放するものです。単位の認定はありませんが、入試なし、受講資格不要、簡単な手続きで受講できます。正規学生と一緒に受講していただきますので、若い世代の学生と交流を持ちながら学ぶことができます。

2009年度の開講場所別の開講科目数・受講者数の状況は下表のとおりです。今年度は浜松キャンパスの受講者数が増加し、昨年度5名(前期2名・後期3名)から、今年度は17名となりました。

開講場所	開講科目数		受講者数	
	前期	後期	前期	後期
静岡キャンパス	187	187	103	83
浜松キャンパス	25	28	4	13
合計	212	215	107	96

過去5年間の実績

2005年度から始めた静岡大学市民開放授業も、2009年度で5年を迎えました。5年間の区切りとして、これまでの実績データを以下に示します。

■受講者数の推移

年度	受講者数	平均年齢
2005年度	106	58.2
2006年度	154	59.9
2007年度	137	62.0
2008年度	166	61.7
2009年度	203	60.8

■開放科目数の推移

年度	共通	人文	教育	理	農	工	情報	法科	計
2005	116	89	14	12	7	6	10		254
2006	127	87	21	118	13	7	10		383
2007	128	114	21	77	7	9	10		366
2008	143	85	17	93	88	7	0	1	434
2009	96	106	21	103	85	4	12		427

■受講科目数の推移

年度	共通	人文	教育	理	農	工	情報	法科	計
2005	56	33	5	0	2	0	0		96

年度	共通	人文	教育	理	農	工	情報	法科	計
2006	63	47	7	9	2	1	3		132
2007	48	46	5	11	5	0	1		116
2008	50	58	5	13	14	0	0	1	141
2009	50	61	3	26	23	2	4		169

■住居地別受講者数

自治体名	2005	2006	2007	2008	2009
神奈川県足柄郡	0	0	0	2	2
伊豆の国市	0	0	0	1	1
伊東市	0	0	0	1	1
沼津市	2	2	3	3	1
富士市	0	1	0	0	2
富士宮市	1	3	2	2	2
三島市	2	2	0	2	3
御殿場市	1	2	1	0	0
志太郡	3	3	2	1	0
菊川市	1	0	0	0	0
掛川市	1	1	2	1	2
静岡市	75	99	101	130	141
藤枝市	4	11	12	12	12
焼津市	4	3	0	0	8
磐田市	0	4	0	3	0
御前崎市	0	0	0	0	5
引佐郡	1	0	0	0	0
湖西市	0	3	2	2	2
島田市	4	4	2	2	0
榛原郡	2	2	0	0	0
浜松市	4	13	9	4	20
袋井市	0	0	0	0	1
牧之原市	0	1	1	0	0
豊橋市	1	0	0	0	0
合計	106	154	137	166	203

■年齢別受講者数

年代	2005	2006	2007	2008	2009
20～24歳	1	4	1	3	1
25～29歳	4	5	2	1	6
30～34歳	4	4	1	2	7
35～39歳	2	0	5	6	3
40～44歳	7	6	5	2	8
45～49歳	6	11	7	7	9
50～54歳	8	6	6	13	10
55～59歳	13	23	10	12	17

年代	2005	2006	2007	2008	2009
60～64歳	33	39	30	40	54
65～69歳	16	33	37	42	42
70～74歳	9	15	20	24	28
75～79歳	2	6	11	9	13
80～84歳	1	2	2	2	4
85～89歳	0	0	0	0	1
合計	106	154	137	163	203

■一人当たりの受講科目数

科目数	2005	2006	2007	2008	2009
1科目	51	92	77	89	123
2科目	34	34	44	45	47
3科目	10	21	12	22	18
4科目	6	4	2	3	9
5科目	3	2	0	4	3
6科目	2	0	2	1	1
7科目	0	0	0	0	1
8科目	0	1	0	2	1
合計	106	154	137	166	203

附属図書館からのお知らせ

2009年3月26日（木）に、市民開放授業受講生による「懇談会」を開催し、たくさんの貴重なご意見をい

ただきました。そのうち、附属図書館に対するご意見に対し、附属図書館から以下の回答がきましたので、お知らせします。

（ご意見）

図書館書庫内の郷土資料が利用しにくい。申込書に記入すると図書館職員が持ってきてくれるが、書名等を書きづらい場合がある。

（回答）

静岡大学附属図書館では、原則的には学外の方の書庫内入庫は認めておりませんが、ご意見にありますように、資料を特定できない等の特別な理由がある場合には、書庫内で閲覧をしていただいています。ご希望の場合にはカウンターの職員にご相談ください。

通常、書庫を利用できる利用者は、本学の役員、教職員、名誉教授等と大学院生としています。このほか、卒業研究等のために希望する学部学生には指導教員の許可を得た上で、書庫利用の申請をしてもらっています。

書庫を開放していない主な理由は、施設の構造上、書庫内が複雑になっていること、また書架整理のための要員を十分に確保できないことにあります。

利用者の皆様の安全確保と、迅速に資料を探し出すための措置とご理解いただきご協力をお願いいたします。

生涯学習教育研究センター運営委員会

当センターには、「生涯学習教育研究センター運営委員会」が組織されています。当センターの運営や組織について審議するとともに、全学公開講座の企画・立案・実施に関しても審議します。静岡大学の教員により組織され、定期的に審議をおこなっています。

運営委員名簿（2009年度）

阿部 耕也	センター長・センター専任教員・教授
菅野 文彦	副センター長・教育学部教授
金子 淳	センター専任教員・准教授
小二田誠二	人文学部教授
小西 潤子	教育学部准教授
横山 昌平	情報学部助教
千葉 慶子	理学部教授
菊池 光嗣	工学部准教授
竹之内裕文	農学部准教授

下村 勝 電子工学研究所准教授
佐藤 龍子 大学教育センター教授

生涯学習教育研究センターでは、学内の公開講座情報、大学開放事業などを掲載し、広報します。各種情報を当センターまでお寄せください。

URL <http://www.shizuoka.ac.jp/~cerll/>

地域と大学 第20号

静岡大学生涯学習教育研究センター情報誌

発行日—— 2010年3月25日

発行—— 静岡大学生涯学習教育研究センター

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

(理学部B棟1階)

TEL&FAX: 054-238-4817 (資料室・受付)

E-mail : LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

(事務局) 学術情報部研究協力・情報チーム TEL:054-238-4317